

毎年恒例のバスツアーが催されました 行列も価値あり！ 華麗な迎賓館に大感動！！

詳しい記事が

NIAホームページからご覧になれます
発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
<http://www.nia08.com/>
nia@jcom.zaq.ne.jp



11月18日、45名が参加しました。うち中国・ガーナ・イランなど外国人6名、事務局1名。天候にも恵まれ、交流を深めました。

周雪(シュウユキ) 王剛(オウゴウ)
(周さん王さんは中国出身のご夫婦。周さんは日本語教室水曜日の学習者)

11月18日に、NIAの皆さんと一緒にバス旅行に行きました。

バス旅行の内容は迎賓館赤坂離宮→ホテルでランチ→葛西臨海公園の水族園です。

迎賓館はスゴイです！赤坂離宮は今回初めて知りました。このパレスは想像していたのですが、着いた時、本当にびっくりしました。想像以上でした。外で並んだ行列は結構長かったです。やっぱり人気がありますね！入る前に手荷物検査がありました。空港と同じくらいの厳しいレベルでした。時間がかかりました。1時間はちょっと長いと思いましたが、入った瞬間に、この待ち時間の値打ちはあった、と思いが変わりました。

「羽衣の間」と「彩鸞の間」は、深い印象を受けました。羽衣の間の天井画、彩鸞の間の華麗な金箔張りレリーフと豪華なシャンデリア。さすが日本の国宝です！

今回の滞在時間はちょっと短かったので、後ろの庭の噴水の方には行けませんでした。残念でした。チャンスがあれば次回に行きます。午後、有明で有名なホテルでランチを食べました。ローストビーフとクロワッサンがとても美味しかったです！

そして葛西臨海公園の水族園に行きました。いろんな魚を見ましたが、マグロを見た時、美味しいかな？と思ったりしました(笑)。本当に楽しかった一日でした。

日本語教室部会が谷津小の「潮なりまつり」に参加しました 子供たちの「驚きと発見」がうかがえました

石井 玲子(日本語教室部会)

11月17日(土)、谷津小学校の「潮なりまつり」に参加しました。当日の国際交流協会のコーナーは、インド・韓国・タイ・台湾・中国・パキスタン・フィリピン・フランス・ベトナムからの学習者やその家族(計16名)、ボランティア(計24名)、その他関係者(計15名)など合計55名が参加しました。

学習者たちは、自国の机に次々と訪れる子供たちに、国の文字で子供たちの名前を書いたり、国の言葉で挨拶をしたり、質問に答えたりと、忙しい半日でしたが、皆さん終始笑顔で楽しんでいました。

子供たちは、民族衣装を着た学習者、おもちゃや本、食べ物・お菓子など、生活をうかがい知れる

展示物などに興味津々でした。また乗り物や生活雑貨が国によって違いがあることに驚いたり、日本にはない習慣など新しい発見もしたようです。「名前だけは知っている国」が、身近に感じたのではないのでしょうか。

今回、子供たちの心に国際交流の種を蒔くことができたり、学習者たちに日本にもっと親しみを持ってもらえたなら、こんなに喜ばしいことはありません。



日本語教室で華道教室が開かれました

10月1日、3日、4日、日本語教室において華道の体験教室が開かれました。

3日間で、有志の学習者29名、日本語ボランティアなど、のべ37名が参加しました。

初めての参加、楽しい時間をすごしました！

ゲン・テイ・ビン(ベトナム、木曜教室)

10月4日(木)の生け花体験に参加しました。私が日本語教室でこのようなイベントに参加したのは初めてだったので、とても楽しい時間でした。

お世話をしてくださるボランティアの方々がお花と水の入った花器、剣山、はさみ等を用意してくださいました。10人くらいの参加者が、生け花講師の佐藤先生の指導に従って、バランスよくお花を生ける手順を学びました。

初めに、ユキヤナギ3本を違う長さに切って剣山に3角形に生けます。中央に長いユキヤナギ、左右に残りを生けました。茎が細いので形よく立てるのがちょっと難しかったですが、なんとか立てることができました。

次に、ユリ3本を同じように長さを変えて中央、左右に生けました。とたんに華やかになりました。最後にカーネーション3本を加えて、きれいに完成することができました。

私の母国ベトナムにもお花を生ける習慣があります。剣山の代わりに水を含ませたスポンジを使います。故郷の母と姉がお花を生ける姿を思い出しました。私が生ける様子を担当ボランティアの鈴木さんが写真に撮ってくれました。よい思い出ができました。



日本語ボランティア養成講座を訪問しました 新しい日本語ボランティアが誕生します！

佐藤 洋子 (広報青年部会)

NIAでは、在住外国人への日本語学習支援活動(日本語指導プラス関連各行事の開催)に協力できるボランティア育成のために、「日本語ボランティア養成講座」を毎年開講しています。週1回1日3時間、全16回。2018年度は8月30日から12月13日まで、主に菊田公民館において行われました。講師の吉田聖子先生(地域人材育成コーディネーター)のもと、23名の受講生が学びました。

15回目の12月6日、授業を見学にお邪魔しました。講座も終盤ということで、模擬演習の日でした。国や性別の異なる外国人学習者を6名設定し、その役すべてを吉田先生が担当。6名の受講生が順次教室の前に出て、担当した学習者(実際は吉田先生)とペアになって日本語指導をする、という演習です。NIAの日本語教室では、学習者とボランティアはマンツーマンが基本。実際にボランティアになったら、早速1対1で授業しなければならないので、演習する受講生も見学の受講生も本番さながら、真剣です。

「養成講座は、将来実際に教える、をターゲットにしています。日本語ボランティアとして活動するための講座ですが、その根底にあるのは、日本語学習者のためにボランティアは何ができるだろうか、という視点です」。



40年以上の日本語教育のキャリアを持つ吉田先生は、そう強調します。

「日本語教室にやって来る人には、それぞれの目的・要望があります。その実現のためには、その人の夢をもっと具体的に落とし込んでいく必要があります。大切なことは、学習者さんはどんな人で、日本語はどの程度か、何をしたいのか、を探り、そこに寄り添う。一般的な日本語のルール、仕組みの説明だけではなく、日本語でできるだけ多く生のやりとりをする。そこにボランティアのいる意味もある、と思うのです」(吉田先生)。

今回の受講生に関しては、「皆さん、とても熱心です。毎回、授業の終わりにその日の感想や疑問を提出してもらおうのですが、皆さんきちんと返す。その内容が濃い(笑)。こういうことを習ったが、こういうケースではどうか、とか」と、先生。

受講生の一人、清水真由美さんの受講動機は、「知り合った人が日本語ボランティアをやっていて、楽しそうだったから」。でも、講座は「毎回大変でした。宿題があるし(笑)。「学習者に沿った授業プランを考える」ということが、なかなか難しかったです」と言います。同じく受講生の坂本兼一郎さんのきっかけは、「市の広報の募集記事を見て、日本語以外の言葉はできませんが大丈夫?と聞いたら、全然OKと(笑)。いろいろな国の人と知り合って、将来的には旅をしよう、できたら海外で仕事ができたらいいな、と思って来ましたが、受講してみると、日本語って難しいと改めて思いました(笑)」。

受講生の方々は、2019年から日本語ボランティアにデビューします。「少しでも学習者さんの役に立てるようなボランティアになれば、と思います」(清水さん)。「言葉もそうですが、学習者さんの生活に寄り添ったことが一緒にできればいいですね」(坂本さん)。そう、頼もしく抱負を語ってくれました。

英語チャットのご案内

ALTのサポートで様々な人たちが英会話を楽しんでいます

人見 順子（国際交流部会）

NIAの英会話活動チャットは、昨年9月より新しいALT(外国語指導助手)2人を迎えて新体制でスタートしました。目的は1.NIAボランティア活動への参加を目指す。2.会員の英会話力の維持向上に役立てる。3.会員同士の交流を深める、ということで、月曜日16時～17時、サンロード6階NIA会議室で行っています。新体制では「お世話係」が、ALT不在時の調整、会場の準備、楽しい会話の雰囲気づくりに努めています。参加者は、15～20名で年齢層は10～90代、赤ちゃん連れのお母さんや日本在住の外国人の方など、それぞれバックグラウンド、人生経験や英会話のレベルも様々でバラエティーに富んでいます。

外国人の視点からのコメントや会話のサポートをしてくれるのが2人のALTです。Saddekni John George (サデックニ ジョージ)さんはバーミングハム出身の24才。大学では国際学、社会学、日本語を専攻していて、茨城大学に10ヶ月留学経験があります。趣味はゲーム、音楽。習志野二中と四中に勤務しています(12月現在)。「慣れなければいけない習慣やきまりもあるが静かで便利な日本が好き。それに食べ物も！チャットでは自分の経てきた文化体験に興味を持ってくれる人々に会えてうれしい。また日本のことについてよくご存知の人たちから学べるのがいい」とジョンさん。

もうひとりのMcCrary Duncan Patrick (マックレリ ダンカンパトリック)さんもバーミングハム出身24才。大学ではマスコミュニケーション、日本語を専攻していて、日本大学に7ヶ月留学経験があります。趣味は音楽(ヘビーロック、ベースギター)、ファッション。「武神館」の黒帯も持っています。習志野三中に勤務しています(12月現在)。学校では多くの生徒が歓迎してくれるのでALTの仕事は楽しく、「チャットは日本や米国についての情報交換がで

きるすばらしい体験であり、年齢層の違う人々から日本について学ぶのが楽しい」とダンカンさん。

9月に加入した池田さん(30代女性)は「皆さん博学でいろいろな話が聞けて、英会話だけでなく、とてもいい時間を過ごせている」と話していました。皆さんもどうぞ一度見学に！



ダンカンさん(左)とジョンさん(右)

タスカルーサ経験をNI-Youthで生かしたい

島田 早織（東邦大学付属東邦高校）



私が今回のタスカルーサ市との青少年派遣・受入事業に参加して見習いたいと感じたことは3つあります。

1つ目は地元愛の強さです。タスカルーサの人々は自分が住んでいるアラバマ州を心から誇りに思い、その良さについて熟知していました。特に印象的に感じたのは、“アラバマグッズ”を、何かのイベントの時だけでなく身近な日常品としてごく自然に利用していたことでした。

2つ目は、それぞれ“自分のやりたいこと”に熱中する姿でした。自分が興味を持てることに対する果敢な行動力や、自分はどうあるべきなのかを自らの知識や経験を最大限に活用して考える思考力には圧倒されました。

3つ目は人との関わりを大切にしていることです。より多くの人と関わるということはより多くの協力者を得られるだけでなく、より多くの考え方を知ることができます。

これらのことは、私が自分の将来について多くの可能性を考えるきっかけとなりました。

この3つの見習いたいことを実行するため、そしてこんなに素晴らしい経験をさせてもらった習志野市とタスカルーサ市に恩返しをするために、私はこの青少年交流を終えた後、NI-Youthに加わりました。

NI-Youthでは、将来について考えている学生や、習志野市を大切に想う大人の方々、普段の学校生活では関わることはできない人たちと出会うことができます。またイベントの企画から実施までを自発的に行うことができます。

私はNI-Youthでの活動を通してもっと多くの経験や考え方を吸収し、今度は派遣生ではなく企画側として再びタスカルーサ市を訪れて、より成長した姿をタスカルーサ市でお世話になった方々に恩返しとともに見せたいと思います。



2019年（平成31年）姉妹都市タスカルーサ市桜まつり アラバマ大学主催「俳句コンテスト」応募作品募集！

今回のテーマ：「心に描く (imagine)」

応募要領：応募用紙はNIA事務局又はNIAのホームページから入手してください。

オリジナルで未発表の作品に限ります。（一人一点まで）

応募締切：2019年1月31日(木)までにNIA事務局へ提出してください。

（郵送・持参・FAX・メール）※連絡先はSQUARE表紙参照

応募部門：小学校1年生～3年生、小学校4年生～6年生、

中学校・高等学校、成人の部の4部門です。

表彰：入賞作品にはアラバマ大学より賞状が授与されます。

※2018年の入賞作品はSQUARE第122号に掲載しています。



日本語教室の茶道教室が 開かれました

12月3日(月)、5日(水)、6日(木)、日本語教室で茶道体験教室が開かれました。3日間合計で学習者30名、ボランティアは延べ36名が参加しました。参加学習者たちはサンロード5階の茶室の畳にお行儀よく座り、まず最初に、和服姿の茶道講師（進藤郁生さん、勝又陽子さん、田中芳恵さん）が点てたお茶をいただき、その次に、自分でお茶を点てる体験をしました。講師の丁寧な説明やボランティアの手助けなどを得て、どの国の学習者たちもおいしそうなお茶が点てられました。

「2018年度 青少年派遣・ 受入事業記録」 が事務局で ご覧になれます

2018年夏に実施された姉妹都市タスカルーサとの高校生交流の記録ができました。

日米高校生をはじめ、学校関係、ホストファミリー、引率者、サポートボランティア等の皆さんの感想と写真からなる受入・派遣体験報告です。

ぜひ一度ご覧ください。

2018年度青少年派遣・受入事業記録

タスカルーサ市青少年受入：2018.6.14～6.25
習志野市青少年派遣：2018.7.19～8.1




習志野市国際交流協会



広報 から

● メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を毎月1回、配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

● 原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

● スクウェア編集部員を募集しています 一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。